

(仮訳)

プレス・リリース

2023 年 10 月 5 日

- バーゼル銀行監督委員会（以下「バーゼル委」）は、2023 年の銀行を巡る混乱に関する報告書を公表。
- 気候関連金融リスクおよび銀行の暗号資産エクスポージャーに関する開示の枠組みについて市中協議を行うことに合意。
- グローバルなシステム上重要な銀行（G-SIBs）の 2023 年選定結果を承認。

バーゼル委は、10 月 4 日、5 日にスイス・バーゼルで会合を開催し、最近の市場動向やグローバルな銀行システムにおけるリスクについて状況把握（ストックテイク）を行うとともに、さまざまな政策・監督上の取組みについて議論した。

グローバルな銀行システムにおけるリスクと脆弱性

バーゼル委は、最近の経済及び金融市場の動向に照らして、グローバルな銀行システムの見通しについて議論した。金利上昇は、銀行の資金利鞘と関連収益を支える可能性がある一方で、長期にわたる低金利の時代に蓄積した脆弱性を露呈する可能性がある。こうした脆弱性には、債務者の債務返済比率の上昇に関連する潜在的な信用損失や、銀行預金者の金利感応度から生じるリスクが含まれる。加えて、銀行は幅広い経路を通じてノンバンク金融仲介（NBFI）セクターにエクスポージャーを有している。銀行および監督当局は、オペレーショナル・レジリエンスの確保を含め、今後進展する見通しに常に警戒する必要がある。この点に関して、バーゼル委は、「[オペレーショナル・レジリエンスのための諸原則](#)」および改訂された「[健全なオペレーショナル・リスク管理のための諸原則](#)」の実施状況について、監督上のニューズレターを今後公表する予定である。

2023 年の銀行を巡る混乱

2023 年 3 月に発生した銀行を巡る混乱は、その規模と範囲において、世界金融危機（GFC）以降で最も深刻なシステム全体に亘る銀行のストレスであった。これを受け、バーゼル委は本日、混乱の原因、規制・監督上の対応、及び得られた初期的な教訓を評価した[報告書](#)を公表する。

本報告書の調査結果を踏まえ、バーゼル委は、以下を含む一連のフォローアップ

作業に取り組んでいる。

- 監督の実効性を強化するための作業を優先し、グローバルなレベルで追加的なガイダンスに値する可能性のある論点を特定する。
- 流動性リスクや銀行勘定の金利リスクなど、バーゼル枠組みの特定の要素が最近の混乱の間に意図したとおりに機能したか否かを評価するために、実証的根拠に基づく追加的なフォローアップの分析作業に取り組み、政策オプションを探求する必要性を中期的に評価する。

このフォローアップ作業は、バーゼル委の上位機関である中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループによって最近[再確認](#)されたように、バーゼルⅢ基準を完全かつ整合的に、可能な限り早期に実施するという要請に完全に沿うものである。

グローバルなシステム上重要な銀行

バーゼル委は、G-SIBs の年次選定の結果を承認した。この結果は金融安定理事会（FSB）に提出され、後日、FSB は 2023 年の G-SIBs リストを公表する予定である。

気候関連金融リスク

バーゼル委は、気候関連金融リスクに対する銀行のエクスポージャーに関する第三の柱の開示枠組みについて市中協議を行うことに合意した。バーゼル委は、提案された枠組みに関する市中協議文書を 11 月までに公表する。

暗号資産

バーゼル委は、銀行の暗号資産エクスポージャーに関連する一連の開示要件について市中協議を行うことに合意した。これらの開示は、2022 年 12 月に公表された暗号資産エクスポージャーに関する[健全性基準](#)を補完するものである。市中協議文書は近日中に公表される予定である。

金融のデジタル化

デジタル化と金融技術の進展は、銀行サービスの提供を含め、金融システムに引き続き影響を及ぼしている。バーゼル委メンバーは、ノンバンク仲介者を通じた銀行サービスの提供（BaaS）を含む、この分野におけるいくつかの動向について意見交換を行った。バーゼル委は、金融のデジタル化の進展と、それが銀行や監

督当局に与える示唆に関する報告書を、来年半ばまでに公表する予定である。